

市民ファシリ等の概要一覧表

※本資料は、ヒアリング実施やHP上の資料で、2023年2月25日きたのわ全道フォーラムに向けて、東田が個人的にまとめたものである。

※2023年3月8日東田更新、2023年3月19日本間更新

市町村名	静岡県牧之原市	千葉県白井市	京都府京都市	滋賀県守山市	北海道芽室町	静岡県磐田市
名称	まちづくり協働ファシリテーター	市民協働ファシリテーター	市民協働ファシリテーター	市民ファシリテーター	市民ファシリテーター	市民ファシリテーター
根拠条例	自治基本条例	市民参加条例	市民参加推進条例	守山市市民参加と協働のまちづくり条例	芽室町自治基本条例	磐田市協働のまちづくり基本条例（令和4年度時点で検討中）
主たるメンバー	牧之原市民	白井市民	市役所職員	守山市民・職員	芽室町民	磐田市民
生まれた背景	H19年マニフェスト検証大会に備えたワークショップ会議をやった。その時初めてファシリテーター（釘山さん、小野寺さん）を呼んだ。その時とても良い話し合いができた。この時がきっかけでファシリテーター養成講座を始めた。	市は、各種計画等を策定する過程において、市民参加条例に基づき様々な市民参加手法が用いられており、これから市民参加・協働のまちづくりを推進していくために、意見交換会やワークショップなど「対話型の市民参加手法」の充実とまちづくりの主体となる市民の合意形成が重要な課題となっている。	市では、政策の形成、実施及び評価の一連の過程において、市政参加の機会を確保しよう努める」旨が定められており、また、市民参加推進計画（第2期改定版）では、「各局区・各職場における市民参加推進のマネジメント体制の強化」を掲げている。	平成25年度守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議提言書から。市長からの諮問に対し「行政が市民および市職員ファシリテーターの育成を支援し、ファシリテーターが地域での「話し合い」の進行役を務め、円滑な話し合いを実施できる体制の構築が必要です。」と【話し合い活性化プロジェクト（仮称）】の実施を提言した。それまでに守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議・市民懇談会で良い話し合いができた経験があった模様。※詳細はPDFリンク	平成29年には町職員ファシリテーション研修（主任・主事職）を実施している。第5期芽室町総合計画後期実施計画・芽室町人材育成アクションプラン	小規模多機能自治の推進 地域ファシリテーター養成講座（平成23年度まで）→まちづくり人材養成講座（平成24年度から）
養成時期	平成20（2008）年から	平成28（2016）年から	平成29（2017）年度から	平成25（2012）年度から記録あり	令和2（2020）年度から	
登録制の有無	行政への登録制	行政への登録制	職員の任命制度		町民活動支援センター	磐田市市民活動センター（受託事業：NPO法人磐田まちづくりネットワーク）
養成講座開催イメージ	H26年に一般向けにファシリテーター養成講座を実施後は、一般向けの養成講座は実施していない。地域リーダー育成プロジェクトでは高校生ファシリテーターを育成していたが、コロナ禍でファシリテーション研修や地域での対話の場のみを行っている。	地域づくりコーディネート（入門）講座の概要 3回シリーズ：計9時間 講師：NPO法人国際ファシリテーション協会椿景子（市民活動支援課職員） 内容：会議や話し合いの場をうまく進めたり、活性化させる方法 受講者：地域活動（自治会活動、PTA活動、市民活動、ボランティア活動等）の実践者 平成28年度27人、平成29年度32人、平成30年度33人、延べ人数：92名、実人数：79人	5日間の実践的な研修を受けた市民協働ファシリテーターは、所属長の了解を得た上で、以下の内容を本務として担う。令和元年度時点で87名が任命され、翌年度も新たに約30名の任命を見込んでいた。 (1)自身の所属において、政策の形成、実施及び評価の一連の過程において、積極的に市民との対話の場を創出すること。(2)市民との対話の場の創出について、他所属から相談があった場合に、企画のアドバイスを行うとともに、必要に応じて運営をサポートすること。(3)翌年度以降の市民協働ファシリテーター養成研修をサポートすること。 ●ワークショップの目的に沿ったテーマ（問い）、デザインの設定、 ●市民から意見を聴くだけでなく、市民にも主体的に動いてもらうためのファシリテーション、 ●ワークショップ当日の実際の運営のポイント、 ●所管課だけでは解決が難しい行政課題に対して、政策融合、市民協働の視点から課題を再設定すること	令和4年度10月開催、市民参加と協働のまちづくり推進会議での委員発言、議事録から。「市民ファシリ」として登録している、これから市民ファシリを活用してはどうか？」との記載あり。 中立的な立ち位置で効率的かつスムーズな会議運営を進めるファシリテーションの技術について基礎から学ぶため、平成25年度からファシリテーター養成講座を実施している。令和5年1月には市民協働課が「ファシリテーター養成講座基礎編・フォローアップ編」を実施。基礎編は職員・市民別で開き、フォローは合同。	「楽しい会議のつくり方」講座 1日目（3時間）「対話の学び・実践」対話・会話・議論の違い、ファシリテーションを学び、実践します 2日目（3時間）「会議の3つの役割・4つの段階の学び」会議の観察をととして合意形成の方法を学び、実践します	磐田市市民活動センターが実施。市の担当は地域づくり応援課地域デザイン推進室 磐田市小規模多機能自治推進事業計画(R4度～R5度)では、令和4年度からファシリテーター育成企画・実施等(以後随時)を計画。 全5回ファシリテーションの基礎知識から実践体験まで一連の流れで学びます。 1・2・3・5日目(2時間半)、2日目（1時間半） ファシリテーションの基礎を学ぼう！、ファシリテーターが身につけたい「話し合いの進め方」、ファシリテーターの役割・準備の心構え、「地域活動情報交換会」で実践してみよう！、5回講座のふりかえり
目標値	今やっていることを見える化することで、会議を親し意欲を有する人の活躍の機会づくりとして、市が行うみやかくし、「会議に普通に來てもらうこと」を目標とした。	地域づくりコーディネート講座の受講生で、基本的なコーディネート能力と会議をコーディネートする実践意欲を有する人の活躍の機会づくりとして、市が行うみやかくし、「会議に普通に來てもらうこと」を目標とした。		市民へへの市民活動に関する情報提供や助成金の充実など市民公益活動への後方支援を積極的に行うことにより市民参加と協働のまちづくりをより一層推進する。	まちづくりには多様な考えを持つ住民の声を引き出し、声を聴き、その声を受け入れ、その多様性を理解し（対話をする）、それらを合わせて新たな方向を見つけ出すことが今後のまちづくりにおいて非常に重要である。対話の場をより充実させるため、住民自らがファシリテーション能力を身につける場を提供し、まちづくりへの参加を促し、町民参加のまちづくりを目指すものである。	対話を重視した地域づくりや市政運営を更に推進するため、会議等の運営をより円滑に効果的な結論に導くことができる人材を養成します。 これまでの座学講座に加え、ロール・プレイング形式(模擬会議)の講座等、市民活動センターのつばと連携しながら実施していきます。
地元組織の動きなど	「自治会組織のあり方検討」に時間を掛けた。	小学校区ごとに「自治連合会小学校区支部」を組織している。支部ごとに、まちづくり協議会設立準備会設立準備中。				
活動時の根拠	具体的な自治を動かすものとしての「自治会地区長会則」		市民参加推進計画（第2期改定版）	守山市市民参加と協働のまちづくり条例施行規則（市民懇談会・市民ワークショップにおけるファシリテーターの選定について）		
活動予算の捻出方法	1地区30万円自治会地区会へ、活動費として出す。県から20万円戻るので、市は10万円×10地区＝100万円のみ。自由なお金、何を買ってもいい、自分たちのお金の責任を持つ。地区計画を推進するために使う。活動する。計画を推進する時に合意していくチカラが必要になるので、市民Fが必要になる。	市民協働ファシリテーターに登録する際、ボランティアでお願いするため、謝金や交通費等は不要。ただし、意見交換会等で参加者へお茶等を配付する場合、市民協働ファシリテーターへのお茶等についても、ご配慮いただきたい。審議会等委員と異なり、ボランティアでの登録となるため、報酬等はなし。	ワークショップの企画やファシリテーション能力を養う研修を受講した職員を、市長が、市民協働ファシリテーターに任命する。行政職員なので、その枠組みの中での業務となる。	市民参画事業[市民協働課]で確保。市民懇談会の開催139万円、ファシリテーター養成講座の実施9万5千円、守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議、まちづくりフォーラム34万1千円、市民提案型まちづくり支援事業助成金300万円	～令和4年度公益財団法人北海道市町村振興協会「市町村が単独で開催するセミナー（上限30万円）」で講座を実施。 令和4年度～町民活動支援センター運営事業7、731千円町民活動の更なる活性化を目指し、町内会活動などのコミュニティ活動支援及び市民ファシリテーター養成業務などを新たに委託する。(7,321千円)	業務及び事業委託料923万円に含まれると思われる。
実際の活躍の場	養成したら、必ず活動する場を公的に提供する。予算とセッで考えている。公的な対話の場（活動予算から、自治会地区会が市民Fを呼ぶ）	基本的なコーディネートスキルを有し、会議のコーディネートについて意欲のある市民が登録されているため、意見交換会やワークショップ等のファシリテーターとして登用することが望ましい。ただし、テーマの専門的知識や経験がなければ難しい意見交換会や高度な技術・豊富な経験が必要とされるワークショップ等、市民協働ファシリテーターを登用することが適さない場合は、この限りではない。	令和元年度は、延べ120名の市民協働ファシリテーターが、各局区等の14件のワークショップ等の企画サポート、当日のファシリテーションに派遣され、活躍した。	職員・市民・学生ファシリテーターが活動している。 令和5年度は市民協働課協働推進係でまちづくり参加促進コーディネーター(会計年度任用職員・パートタイム)を募集、活動の場をコーディネートする。	総合計画審議会専門委員会 ファシリテーター講座実践の場「発達障がいとまちづくり」の開催 令和3年度養成講座終了後に修了者のアフターフォロー等が必要と認められた。養成講座修了者の希望する方で構成する。 令和4年度から町民活動支援センターの業務として委託。北海道市民ファシリテータープラットフォームとも連携し、会員の研修の場を確保する。	協働のまちづくり行動計画策定に向けて、その基となる意見等を抽出するため、「協働のまちづくりサロン」を開催。地域活動情報交換会。
波及効果としての活動	「地域リーダー育成プロジェクト」が生まれて、現在進行形である。高校生同士や大人との対話の場を設けており、その運営を市民Fのチームである「CLIP」が実施している。学校の授業にF講座が入り、2高の高校生が対話の場に参加している。	登録者はファシリテーターとして実践する意欲があり登録しているが、意見交換会、ワークショップの開催日時、場所、内容によって、承諾するか否かを判断してもらうため、依頼の際に十分に説明を行うこと。	市民協働ファシリテーターはよい仕組みであり、市職員の方が様々な地域やテーマで前向きな市民の方と多数触れ合うことは、今後の市政にも役立つ、という御意見もいただいたとの記載あり。			
課題	①登録者を増やす：市民Fになるよりも、市民Fを増やすよりも、研修プログラムに参加するまでのプロセスデザインの方が大事で、多くの市民にF養成研修を受けてほしい	登録要件に「趣旨に賛同し、会議をコーディネートする意欲があること」、「市の地域づくりコーディネートの講座を受けていること」と定めていることから、基本的なコーディネートスキルは習得している事が前提条件ですが、登録した市民の個人差（意欲やコーディネートのスキル）があるため、登録することで質を保証しているものではない。	①行政課題解決に向けた更なる活躍 「市内・お困りごとバンク」を立ち上げ、市内各部署の抱える行政課題を、市民協働担当と市民協働ファシリテーターがサポートする取組を始めます。これまでのワークショップ開催支援とともに、所管課の抱える課題の共有、再設定、市内の連携、市民との協働型の解決の検討を、対話、ファシリテーション技術を使い支援します。併せて、ウィズコロナの社会状況にも対応したファシリテーターの活躍のため、オンラインも用いたファシリテーション技術の習得にも取り組みます。	市民交流センターの運営が指定管理から直営になった。持続可能な協働のまちづくりの推進に向けて、中間支援組織の構築を目指す。	令和2年度～令和4年度の3年間連続で講座を実施し、ファシリテーターの養成を行った。毎年実施することが必要であると認識しているが、参加者数が20人以下であることを考慮し、次年度以降は隔年で開催していきたい。	
課題	②市民ファシリとしての技能：「会議に普通に來てもいい、もっと覚えたいとならないことが多い」「市民が動かないとならなかった事例」を読み解き、どうすれば、本当の会議でFができる市民Fになっていくのか考えたいとならない。	平成31年度から本格運用を開始した無作為抽出公募案らう→「本当の会議でFができるようになる」には、もっと覚えたいとならないことが多い。「市民が動かないとならなかった事例」を読み解き、どうすれば、本当の会議でFができる市民Fになっていくのか考えたいとならない。	②都市経営の視点も踏まえたイノベーション人材の育成 都市経営戦略室と連携し、本市が目指す、都市経営の感覚をもち、多様な主体と協働し、必要なリソースを自らアプローチできる人材の育成の一環として、市民協働ファシリテーター制度を進化させ、広い視野を持ち、市内横断的な視点で、政策を立案できる「イノベーションファシリテーター（※）」の育成に取り組みます。※場の進行とデザインを行うことにとどまらず、幅広いステークホルダーを巻き込み、対話により主体的にアクションを引き出し、大きな変革の道筋（政策）を描くことができるファシリテーター。	「活力ある住みややすき日本へが実感できる守山」の実現にむけて市民参加と協働のまちづくりの推進を図っていますが、市民と行政が目指すまちづくりの方向性を共有し、また、現状とのかい離を認識する中で、市民と行政が協働でまちづくりを進めていくために、住みややすき指標を策定します。	市民ファシリテーター組織の活動 ・市内で町民が参加する会議の場への活用について、魅力創造課がPRを行い、対話の場でファシリテーターとして活動 ・会員同士が対話をし、自分たちで企画するまちづくりに資する活動 ・町が行うファシリテーター研修において、新たな参加者と講師をつなぐコーディネーターとしての活動	
課題	課題③上記の課題を解決するためには？：会議も合意も協働もまちづくりも、楽しいと住民に思ってもらえるように。そのプロセスデザインが、とても重要。何かを仕掛ける時には、そこに必ずプロセスデザインが必要だが、デザインがあることを知られるようでは、まだまだダメ（笑）	継続的なコーディネート能力研修のため、概ね3年に1度は市が実施する地域づくりコーディネート講座を受講してもらうため、登録年度から2年後の年度に設定する。例：令和元年度に登録→令和3年度末まで（令和4年3月31日まで）				
未来像	地域を愛して、人と話せる子どもや大人を育てることが大事。	認定制度を、今後検討する。				
所感	2018年から、3回程度の加藤氏（行政内部で制度化した際の担当者）へのヒアリングで纏めたものを基本とし、CLIP武田であるさんと加藤さんに改めてヒアリングを行い、2023年3月更新した。 牧之原型市民ファシリテーターは、行政の登録制市民ファシリテーターという「新しい仕組み」と、市民ファシリテーターという「役割を担う、地域を愛している、対話ができる人で、且つそういう人を育てる人」から出来ている。仕組みだけでも、人だけでも「牧之原型」にはならない。	市役所HPから『「市民協働ファシリテーター登録制度」の創設と運用について」を参照し、取りまとめした。登録よりもステップアップした認定を検討とのことで、さらなるステップアップが期待できる。しかし一方で、ボランティアなので、どこまで継続できるのか？の不安は残る。	ネット上の京都市からの資料で検索したものを、まとめたものである。資料には『市民協働ファシリテーターに任命された職員は、各所属がワークショップを実施する際の企画や運営とともに、行政課題解決のために行政と市民をよきにつなげる支援を行いますので、希望されるご所属、ご担当者様は、総合企画局総合政策室（市民協働推進担当：222-3178）までお気軽に御相談ください」とあり、行政側の意気込みが感じられる。特に講座で学ぶスキルの中に「所管課だけでは解決が難しい行政課題に対して、政策融合、市民協働の視点から課題を再設定すること」とあり、これは行政職員までもは！だと感心した。	これからの期待がある。	ネット上の資料をまとめたものである。	ネット上の資料をまとめたものである。
その他	【対話の場とひとつくり】 第14条市は、自由な立場でまちづくりについて意見交換できる対話の場を設置するよう努めるものとする。 2市は、協働のまちづくりを進めるための人材の育成に努めるものとする。			参考： https://www.city.moriyama.lg.jp/shiminkyodo/documents/h25teigensho.pdf https://www.city.moriyama.lg.jp/zaisei/documents/part22022.pdf https://www.city.moriyama.lg.jp/shiminkyodo/suisi-n-kaigi/r04/documents/O3.pdf https://www.city.moriyama.lg.jp/shiminkyodo/suisi-n-kaigi/r02/documents/houkokusiryuu1.pdf	https://mgikai.memuro.net/upload/file/g_commtitee/file7_1675047188.pdf https://mgikai.memuro.net/upload/file/g_commtitee/file7_1675047188.pdf	https://www.city.iwata.shizuoka.jp/_res/project/s/default_project/page_001/002/734/r03sivoo.pdf https://www.city.iwata.shizuoka.jp/_res/project/s/default_project/page_001/008/427/dai6kai.https://www.azarea-navi.jp/wp-content/uploads/2022/07/r40731.pdf

市民ファシリ等の概要一覧表

市町村名	静岡県焼津市	東京都武蔵野市	青森県弘前市	青森県八戸市
名称	市民ファシリテーター	市民ファシリテーター		
根拠条例	焼津市自治基本条例		協働によるまちづくり基本条例	協働によるまちづくり基本条例
主たるメンバー	焼津市民	武蔵野市民		
生まれた背景	制度化は不明	制度化はされていない。	過去に講座が開かれているが、制度化した様子はない。	過去に講座が開かれているが、制度化した様子はない。
養成時期	平成29（2017）～令和元（2019）年度			
登録制の有無			なし	
養成講座 開催イメージ	一般社団法人トリナス（静岡県焼津市を中心とした地域のコーディネート集団）が企画・運営。市の担当は市民協働課市民協働・男女共同参画。 《平成29年度》 ・ファシリテーション講座の実施 開催期間：9月～1月全5回開催 ・市民活動支援・実践講座の実施 開催期間：10月～12月全3回開催	武蔵野市市民活動推進課コミュニティ推進係、武蔵野市コミュニティ研究連絡会が「地域をつなぐコーディネーター養成講座in武蔵野市コミュニティを拓こう」を実施。2時間×4回で、コーディネートを学ぶ中で対話のスキルを身につける。	「まちづくりファシリテーター養成講座」 1日目（4時間）ファシリテーターの基本を知ろう！…参加者がお互いに知り合う方法／まちづくりにおけるファシリテーターとは 2日目（7時間休憩あり）まちづくりの基本的技法を学ぼう！…会議を「見える化」する方法／ファシリテーショングラフィック／地図を使って地域の課題・資源探し／実践してみよう 3日目（7時間・休憩あり）まちづくりのプロジェクトをつくってみよう！…地域のさまざまな人が参加するまちづくりのプロセス／ワークショップのプログラムづくり／発表会	市民連携推進課が協働のまちづくり研修会を実施。協働のまちづくりへの積極的な参加・参画を促進するため、市民を対象とした研修会を開催する。（総合計画に記載） 「まとまる会議の記録術！対話の見える書き方講座」 2時間半 ・まちづくりファシリテーター養成講座（平成29年） 1. ファシリテーターについて知ろう！ 2. ファシリテーション・ワークショップの手法を学ぼう！ 3. まちづくりのプロジェクトを作ってみよう！
目標値			地域でまちづくりを進めるためには、プロジェクトの企画・運営をする技術のほか、さまざまな人や組織の出会いを生み出し、協働して力を発揮させるための技術が必要です。この講座では、全3回の座学や演習を通して、市民参加のまちづくりや技術を持つ人（＝ファシリテーター）の養成を目指します。また、みんなで知恵を出し合い、共に行動するために有効なワークショップの進め方なども実践的に学べます。	
地元組織の動きなど				
活動時の根拠				
活動予算の捻出方法			コミュニティセンターの管理運営及びコミュニティ活動の推進に5億4178万円確保。	
実際の活躍の場	総合計画策定に市民ファシリテーターを募集していた。（市の計画づくりに市民のファシリテーターを登用するのは、全国でも例例をみない取組と記載あり）	市の事業「コミュニティ未来塾むさしの」やオンラインワークショップ講座の修了生が第六期長期計画・調整計画の市民ワークショップ全体の進行及び各グループでの対話の進行を担当。		
波及効果としての活動				
課題				
課題				
課題				
未来像				
所感			市民参加型まちづくり1％システム支援補助金という仕組みがある 平成29年に弘前市協働によるまちづくり推進審議会でファシリテーターに関するやりとりがあるが、その後が見られない。現在は情報発信方法の工夫に重点を置いている様子。その後講座の記録がない。	
その他	https://www.city.yaizu.lg.jp/dai6ji_keikaku/documents/siminfasirite-ta.pdf		https://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/kihonjourei/zichigaidobook.pdf ※地縁と市民活動を分けているのも参考になる https://www.city.hirosaki.aomori.jp/oshirase/ku_rashi/H28fasiri_tirasi.pdf https://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/kihonjourei/29madikaigi4.pdf https://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/kihonjourei/toushin_R4.pdf 弘前市協働によるまちづくり基本条例	